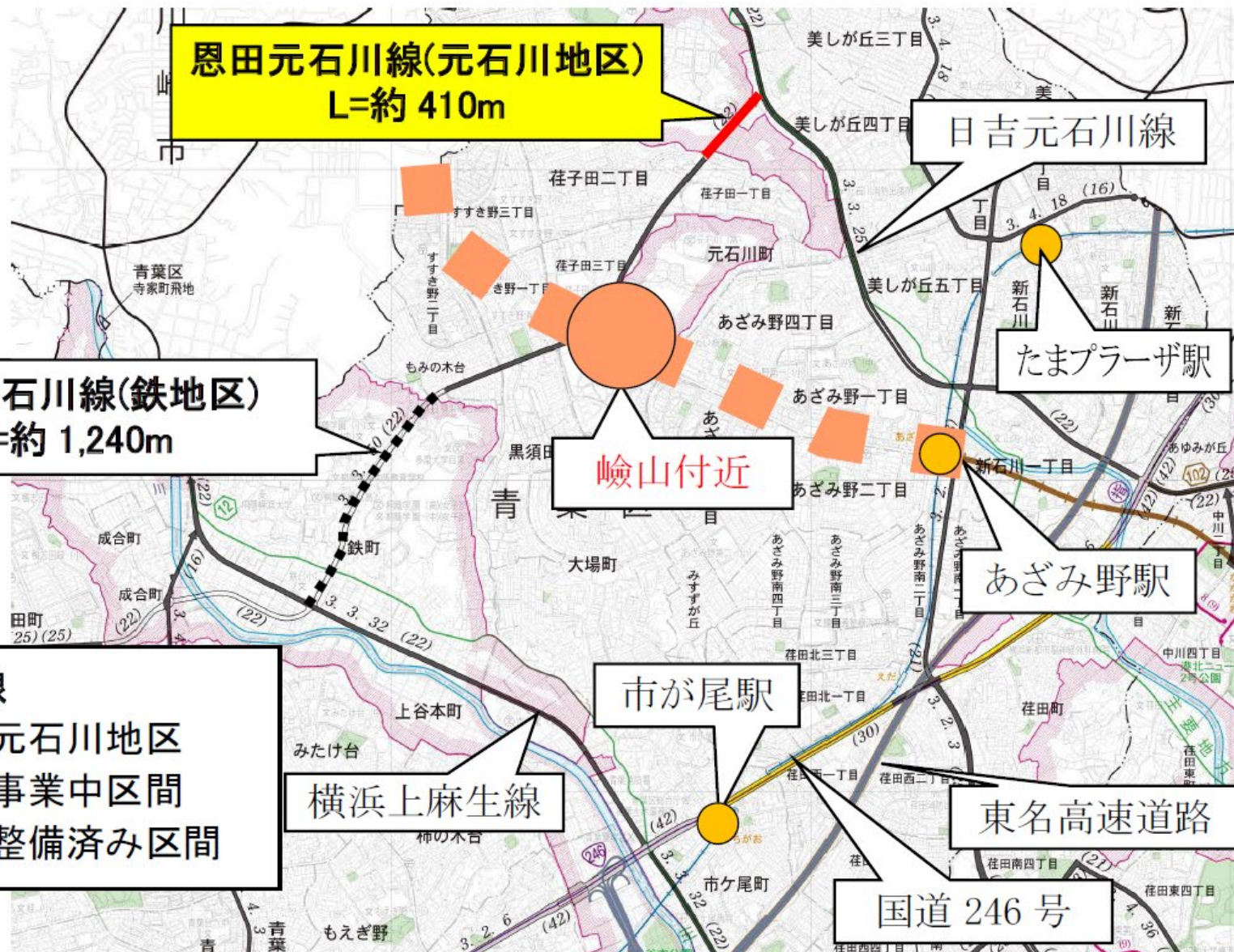


道路一1
都市計画道路恩田元石川線
(元石川地区)
整備事業

案内図



事業概要

| | |
|-----------------|---|
| 事業内容 | 延長 約410m (道路新設) 幅員22m、2車線、両側歩道 (開削構造) |
| 事業スケジュール | 令和6年度から令和12年度までを予定 ※今後の検討状況により変更になる場合があります。 |
| 総事業費 | 約52億円 (工事費 約20億円、用地・補償費等 約32億円) ※今後の検討状況により変更になる場合があります。 |

事業の必要性

1 都市計画道路としての位置付け

当該路線は平成4年から平成11年にかけて住民参加方式を取り入れ計画案の取りまとめを行い、平成15年に都市計画をしています。

「青葉区のまちづくり指針(H29.9)」では、区内を格子状に結ぶ骨格道路として位置付けています。

2 環境、防災空間としての位置付け

地域の骨格的道路ネットワークを担う路線として、主に地域で発生・集中する交通を処理するとともに、歩行者の安全性の確保や、災害・緊急時における緊急物資の輸送路や、緊急車両の通行路としての役割を担うなど、総合的な機能を有します。

3 地域拠点へのアクセス性向上のための位置付け

あざみ野駅をはじめ、たまプラーザ駅や市が尾駅など、区内の地域拠点へのアクセス性向上に寄与します。

また、当該周辺地域で、市営地下鉄3号線の延伸事業に伴い、整備が予定されている嶮山付近の新駅へのアクセス性向上にも寄与します。

事業の効果

1 安全性の向上

生活道路に入り込んでいる車両の当該路線への転換が期待されるとともに、幅員の広い歩道や自転車通行帯が整備されることによって歩行者および自転車が安全で快適に通行することができます。

2 災害に強い街づくりを促進

沿線には住宅を中心に、学校や病院などが立地していることから、災害・緊急時における緊急物資の輸送路や、緊急車両の通行路としての機能を確保するなど、災害に強い街づくりを促進します。また、整備に併せ、当該区間の無電柱化実施します。

3 アクセシ性の向上

元石川地区を整備することにより青葉区内の幹線道路（横浜上麻生線、日吉元石川線）を東西方向に接続する骨格的なネットワークの形成に寄与し、青葉区内の地域拠点とのアクセシ性が向上します。

事業の効果(費用便益分析)

国土交通省の費用便益分析マニュアル（令和4年）に基づき
費用便益比（B/C）を算出

| | |
|------------|-------|
| 総便益(B) | 141億円 |
| 総費用(C) | 46億円 |
| 費用便益比(B/C) | 3.1 |

※社会的割引率は4%

※便益については、走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少を計上しています。

※費用については、道路整備に要する工事費、用地費、補償費、間接経費等を計上しています。

環境への配慮

無電柱化により、防災力・安全性・快適性の向上及び良好な景観形成を図るよう努めます。

地域の状況

当該区間については、令和元年度より先行取得路線に位置付け、用地の先行取得を行っています。

また、事業については、令和5年の測量実施前に周辺の方々へ周知しています。

事業手法

公共発注方式によります。